

製品名: APG5L (3C10) マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM00895**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100
分子量	Calculated MW: 32 kDa; Observed MW: 55 kDa

抗原情報

遺伝子名	ATG5
別名	APG 5L; APG5; APG5 autophagy 5 like; APG5 like; APG5-like; Apoptosis specific protein; ASP; ATG 5; ATG5 autophagy related 5 homolog; Autophagy protein 5; hAPG5
遺伝子 ID	9474
SwissProt ID	Q9H1Y0
免疫原	ヒト APG5L/ATG5 の合成ペプチド

背景

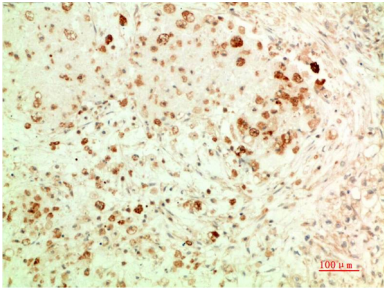
オートファジーに必須。ATG12 と共役し、隔離膜と会合してカップ型の隔離膜とオートファゴソームを形成する。酸化ダメージ後の

ミトコンドリアの品質管理、そしてその後の細胞寿命に関与する。

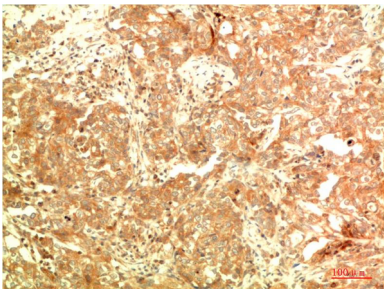
研究分野

細胞生物学

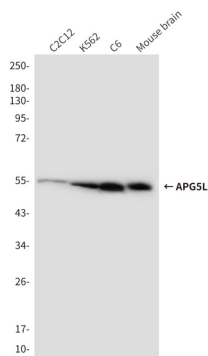
画像データ



APG5L (3C10) 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト卵巣癌組織の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。



APG5L (3C10) 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。



APG5L (3C10) 抗体を用いた C2C12、K562、C6 マウス脳溶解物中の APG5L (3C10) のウェスタンブロット分析